

平成 26 年度文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール (5 年間指定)

2015 SGH 通信

【1 年生配布用】

No6 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

平成 27 年度 SGH グローバル講演会①②を終えて

■平成 27 年 4 月 24 日(金)名古屋大学国際開発研究科 梅村哲夫教授「国際開発を学ぶ意義」(報告済み)

■平成 27 年 5 月 8 日(金)国際連合地域開発センター 高瀬千賀子所長「国連と開発」



1 年生 322 名を、1~4 組・5~8 組の 2 グループに分け、1・2 限目と 3・4 限目の計 2 回のご講演をいただきました。国連一筋で歩いてこられた高瀬所長様の視点で、国連の働きを中心として「ミレニアム開発目標」と作成中の「ポスト 2015 開発アジェンダ」に至る過程を御説明いただき、現在抱えている課題や今後の展望をお話になりました。

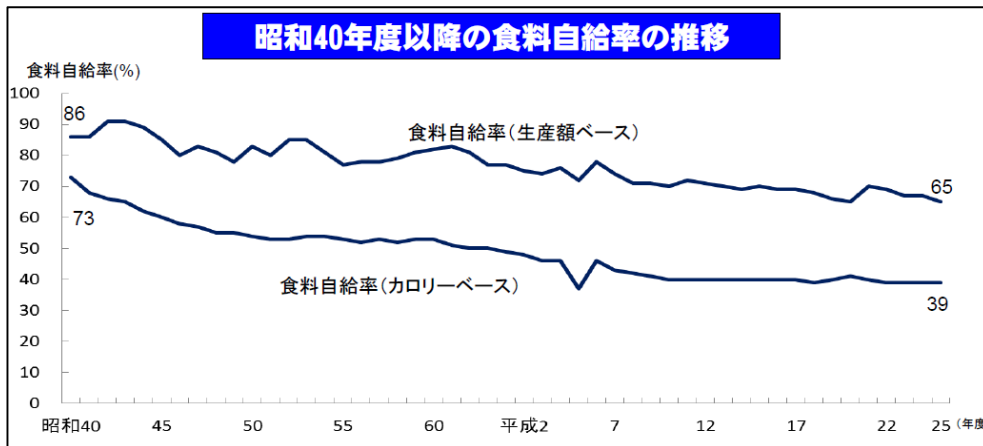
何より貴重な視点として、途上国だけの問題ではなく、世界中のすべての人々の幸せを追求して、多くの人々の多様な視点で次なる開発目標を定めておられるという事実が確認されたことです。まさに、「持続可能な社会の実現」に向けて世界の人々が努力する過程の歴史的な立会人であることを自覚する機会になったと思います。ただし、探究的な学習は、「立会人」である君たちを育てるためのものではありません。

「開発」の当事者になるための力を付けていくためには、今後の「SGH 課題研究」に当事者意識が持てるかどうか一つの鍵になると思います。

【生徒感想文】

今回の講演で、国連と開発について多くのことを学ぶことができました。高瀬先生が所属している国際連合地域開発センターでは、統合的地域開発、都市部管理、環境・防災管理計画などの分野の仕事をしていることが分かりました。このセンターでは、第二の開発の 10 年を進めるために作られ、地域レベルの開発を行うことで、世界中の人々が平等な暮らしができるよう活動していることを知りました。また、ミレニアム宣言は、極度の貧困を削減し、安全でより繁栄した公正な世界を建設するために出され、8 項目あることが分かりました。その中で、私は特に、「普遍的な初等教育の達成」に興味を持ちました。私の将来の夢は教師であるため、世界の教育についてもっと理解を深め、現状を知りたいと思いました。現在 2015 年ですが、まだ更なる努力が必要な項目がいくつかあります。だから、世界中が平和で平等な暮らしをするためには、まだまだすべきことがたくさんあるということを知りました。(前半受講・女子)

GSID 教授 梅村先生より、【食糧自給率】についての補足資料を頂きましたので、紹介します。



資料①農林水産省「平成25年度食糧自給をめぐる事情 p.1」より

(1)カロリーベースの食糧自給率は昭和40年以降、低下しており、平成25年度は39%。資料①（なお、生産額ベースの自給率はあまり重視していません。物価や為替レート、食品の嗜好等が影響するからです）

Q.3 もし、食べものが輸入できなくなったら、どんな食事になるのかな？

毎日の食事がどうなるのか、朝食、昼食、夕食ごとに調べてみましょう。また、ときどきしか食べられないものは何かにについても調べてみましょう。

■国内生産のみで食料を供給するときの1日のメニュー例

毎日の食事

朝食

ごはん、焼きいも2本、めかづけ1皿、茶わん1杯 (さつまいも225g分) (野菜90g分)

昼食

焼きいも2本、ふかしいも1/2個、リンゴ (さつまいも225g分) (じゃがいも84g分) (リンゴ1/4個)

夕食

ごはん、粉ふきいも1皿、焼き魚1切、茶わん1杯 (じゃがいも168g分) (魚の切り身81g分)

※1日分の調味料＝砂糖小さじ6杯、油小さじ0.9杯

ときどきしか食べられないもの

2日に1杯 うどん (小麦55g/日分)

2日に1杯 みそ汁 (みそ10g/日分)

4日に3パック 納豆 (大豆36g/日分)

6日にコップ1杯 牛乳 (牛乳32g/日分)

7日に1個 たまご (にわとりのたまご7g/日分)

9日に1食 肉 (肉類12g/日分)

えっ！お肉は9日に1回だけ？さびしいごはんだなあ。

供給熱量(カロリー)が高く、生産しやすいもの類をつくるなど、最低限必要な食料は確保できるけど、食事の内容はずいぶん変わってしまいます。

17

(2)食料輸入が止まると、1日に、ごはん2膳、焼き芋4本、ジャガイモ1.5個程度、ぬかすけ1皿、リンゴ1/4個、焼き魚1切れに加え、動物性タンパク質に関しては、卵は7日に1個、肉は9日に1食。資料②

(3)岐阜県の平成24年度のカロリーベース食糧自給率は、26%で全国平均の39%を下回る。従って岐阜県は、北海道や他県から食料を移入(国内での輸出入にあたる言葉として、移出/移入と言います)する必要があります。資料③農林水産省「都道府県別食糧自給率」

資料③の表はスペースの都合で割愛します。以下のリンクより確認してください。

http://www.maff.go.jp/j/press/kanban/anpo/pdf/140805_1-01.pdf

資料②農林水産省「平成22年版こども農林水産白書 p.17」より